

キッズ 補欠ゼロリーグ!

補欠ゼロリーグは、キッズ年代（10歳以下）の子供たちに「年間を通して定期的に試合ができる環境」を提供するため、2004年にスタートした岩手県独自の取り組みです。  
才能を埋もれさせず、ひとりでも多くの子供たちがサッカーへの関心を持続してくれることを目的としています。

- 主催：(公社) 岩手県サッカー協会
- 主管：(公社) 岩手県サッカー協会 キッズ委員会 各地区
- 運営：地区キッズ担当者、参加団体指導者、JFA キッズリーダー、父母の方々など
- 対象：少年団・クラブチーム・スクール所属のキッズおよび準ずるキッズ（傷害保険に加入のこと）
- 内容：2002年にJリーグ・アカデミー（当時プロジェクトリーダー山下則之氏）が提唱した、「補欠ゼロ = 参加するすべての子供たちに均等に試合の機会を提供する」の考え方を基本として、参加団体の対抗戦に固執せず、集まった子供たちをシャッフル混成チーム分けして（補欠を作らず4~5人制）、そのチームでその日限りのリーグ戦を戦い抜きます。

- ★試合には常にレギュラー選手としてフル出場
- ★混成するので団員1人での参加も大丈夫
- ★4~5人制でボールに関わるシーンが多い
- ★混成チームの中でプレーすることで社会性を養う

岩手県 一関地区 (最終節)

2019年3月9日(土) 一関市 東山総合体育館 9:00~12:00

カテゴリー： 幼児 / 小1+小2合同 / 小3 / 小4

参加人数： 71名 (幼児7名、1~2年27名、3年18名、4年19名)



開会式



本日は一関南FCが先導して、全員で準備体操



各カテゴリーでシャッフルチーム分け (写真：小1~2)



各チームそれぞれで自己紹介タイム (写真：小3)



幼児の部



ダルマさんが転んだ(イモ虫バージョン) ママも進行役を体験



手つなぎドリブルでグリッドを周回



条件コールゲーム (3月生まれの人! 今日の朝食がパンだった人!) 両チームから該当者が出て対決してシュート



親 vs 親ゲーム (地域ママさんフットサル大会でプレーしているようで積極的です)



リトルなでしこは別メニュー調整(エンドレス)



小1+ 小2の部



こおり鬼



キックターゲット (マーカーに乗ったボールを落とす)



小3の部



三つ巴ゲーム： 3色チーム同時対決、3色コーンゴール設置、シュートは1点、ドリブル通過は2点、結果発表まで



小4の部



手つなぎ鬼



パスを受けてアウトサイドで持ち出してのシュート練習



長距離キックターゲット（マーカーに乗ったボールを落とす）



## 一関地区 キッズ補欠ゼロリーグ

### ●担当責任者

佐藤幸生（藤沢）

### ●加盟団体

一関、一関南 FC、萩荘 SC  
山目ウィングス FC、中里フレンズ SC  
千厩 SC、東山 FC Jr、平泉 FC、藤沢  
一関キッズ、FC カワサキ、AC ムロネ  
花泉 FC、平泉キッズ、大東ジュニア

### ●本日のスタッフ

U6	岩井（千厩） 佐藤洋充（県協会）
U7+U8	畑山（一関南） 伊藤（FC カワサキ）
U9	佐藤幸生（藤沢） 千田（平泉キッズ）
U10	立石（中里） 千葉（山目）



### ●担当責任者コメント

#### <当日の様子>

今節は最後の補欠ゼロとあって、参加した子供達の顔つきがひと回りもたくましく見えました。

「U6」 お父さんお母さんと一緒に親子サッカーをして、笑顔が多くみられました。中にはお母さんが上手じゃないからとスネている子も見られましたが、スタッフの声掛けで安心してプレーしていました。

「U7+U8」 ドリブル、パス、シュートをトレーニング・クリニックで行い、ゲームではしっかりと意識がみられました。

「U9」 トレーニングはドリブルをテーマとし、周りとはぶつからないようにしっかりと周りを見る、スペースを見つけて運ぶことを行い、ゲームではスペースを見つけてパス or ドリブルの選択を意識しているようにみられました。

「U10」 4年生の初期は上手な子が1人で運ぶ事が多かったですが、今節で最後の4年生はお互いにコミュニケーションをとりながらゲームをしていて、凄く良かったと思います。

#### <一年間を振り返って>

1年を通して多くの子供たちが参加してくれました。（昨年度 496名、今年度 620名 ⇒ 124名 増）

初めて参加する子供達は緊張などでうまく溶け込めない様子も見られましたが、同学年の友達、上級生、スタッフなどのやさしい声掛け等で上手く溶け込み、参加者同士のコミュニケーションが取れたと思います。

普段の試合では各少年団の好敵手（ライバル）ですが、ここでは参加者をシャッフル混成チームにして試合をするので、お互いにコミュニケーションを取りながらゲームを作っていくことを経験できたと思います。

今年度からカテゴリーを年代別に分けることにより、学年にあったクリニックやトレーニングができたので、ゲームの時に意識してchallengeする子供が多くなりました。

特にU6では、数節ではありますが、お父さんお母さんと一緒に親子サッカー教室として行い、子供達が安心してサッカーができたことは凄く良かったです。

参加した親御さんが興味を持ちキッズリーダーを取得するなど、一緒に活動してくれるスタッフも増えたことは良かったです。

4年生は、これから各チームの主軸となれるよう頑張ってください。

3年生以下は、また来年度も楽しくサッカーをみんなでやりましょう。

最後に、各チームの関係者、保護者の皆様には様々な角度よりお手伝い等頂きありがとうございました。

一関地区 補欠ゼロリーグ 担当： 佐藤 幸生

撮影 編集： 鎌澤和之（県協会）